

第1回狭山ニュータウン地区活性化指針策定委員会議事録（要旨）

日時	平成30年6月5日（火）午前10時～
場所	大阪狭山市役所 3階 協議会室
出席者	19名
次第	1 狭山ニュータウン地区活性化指針の策定について

1	策定委員会委員の紹介 事務局から、策定委員会委員が紹介された。
2	委員長、副委員長の選出 委員の互選により、委員長に上甫木委員、副委員長に小野委員が選出された。
3	策定委員会の成立 委員総数19名について、全員出席により策定委員会の成立を確認した。
4	策定委員会の公開 策定委員会の公開が承認された。
議題1 策定委員会の内容、スケジュール 資料1～3について事務局より説明があった。	
議題2 狭山ニュータウン地区の活性化に向けた基本的な考え方 資料4～7について事務局より説明があった。	
委員長	狭山ニュータウン地区の資源や課題について、生活していて感じることを出して欲しい。資料についての質問も含めてお願いしたい。
委員	資料4、21頁、教育環境について資源や課題に触れられている。29頁では、教育環境の整備として、「小中学校の適正規模、適正配置について検討を進めます。」とある。この委員会で学校統廃合に踏み込んだ議論を行うのか。
委員長	この10年間で人口の1/4が減少している。このトレンドが続くことが予想されるので、公共施設の適正立地の検討は避けて通れない。将来の姿を見据えた検討をしたい。
	人口の動向について
委員	資料4、18頁の資源と課題を受けて、26頁以降で具体的な取組みが示されている。
委員長 事務局	人口の将来動向を踏まえると、縮小型の計画になる。 基本的な考え方は、委員会で議論してもらうためのたたき台であり、課題に対応して取組項目は幅広く取り上げている。委員会での意見を踏まえて、見直しをしていきたい。
委員	資料4、5、6頁の人口ピラミッドを見ると、30～34歳から下の階層が減少している。出生数よりも転出者が多くなっているのではないかな。
委員長 事務局	将来推計はされているのか。 狭山ニュータウン地区について、年齢別の推計については、現在実施していない。年齢別でふくらみがあるのは、団塊の世代周辺と団塊ジュニアの層である。
委員	NHKの番組で第2次ベビーブーム世代が後期高齢者になる2050年には、人口ピラミッドが棺桶型になるとのことであった。
副委員長	狭山ニュータウン地区は、新しい人が入ってくるかがポイントになる。若い人に来てもらう取組みを実施して、2050年の後期高齢者増に備えていきたい。
	定住意向の背景となる公共交通、近大病院について
委員	交通に係る問題を指摘したい。資料6、1頁、狭山ニュータウン地区の南中校

	区は「住みよいまち」といった回答が多いが、住み続けたいか聞いたところ、「市外へ引っ越したい」回答は 8.3%と、他の校区より多くなっている。住みよいと思っているが、引っ越したい人の率が多い。住み続けたい理由では、「保健・医療機関が整っている（29.0%）」が多いことに対して、「公共交通機関が整っている（9.8%）」は少ない。保健医療はよいが、公共交通が十分ではないことが、定住意向に影響している。 資料 4、2 頁、人口減少が著しいのは西山台四丁目、大野台六丁目、西山台五丁目となっており、これらは狭山ニュータウン地区の中でバス交通が不便な地区である。住み続けたいといった定住意向には、公共交通機関が関係している。将来的な近大病院移転によって、定住意向に影響が出ることが予想される。近大病院が移転すると、現在 10 分間隔のバスの便は減ることになるかもしれない。
委員	
委員	資料 6、5 頁、アンケート調査結果では、近大病院の移転によって地域医療のレベル低下が不安視されている。
委員長	大阪狭山市全体で、地域特性の差がある。狭山ニュータウン地区の中でも地域特性の差がある。
委員	市全体では駅近接かどうか、狭山ニュータウン地区ではバス路線に近いかが、定住意向に影響が出るのではないかな。
副委員長	アンケート調査において、どんな人が市外へ引っ越したいと思っているのか、分かるとよい。住み続けたい人についても、どんな人なのか属性をみたい。
委員	少子高齢化、近大病院の移転により、人口減少の傾向は強まるのではないかな。狭山ニュータウン地区活性化の基本は人口減少を防ぐことである。資料 4、24 頁の基本目標の達成をめざしたい。目標達成のための取組項目のひとつが、若い世代の呼び込みであり、具体的な取組みの一つとして、例えば、妊娠・出産包括支援事業等の充実が上げられている。誰がどのようにして実現していくのか、具体的な検討がいる。 指針の計画期間について
委員長	過去～現在～将来の流れがあり、将来像実現に向けたシナリオ、プロセスを計画化することで実現性が高まる。
委員	泉北ニュータウンから狭山ニュータウン地区に引っ越してから 20 年住んでいる。まちづくりに興味があって委員会に参加した。 郊外より都心居住が求められる中で、交通利便性がよくない狭山ニュータウン地区の活性化をめざそうとしている。この指針は、総合計画の内容を反映させた上で、5 年先ぐらい先を考えるのではないかな。委員会では、事業化に向けた検討ができるとよい。狭山ニュータウン地区は、全市と比較すると、高齢化率は 10%ほど高いが、コミュニティがしっかりしている。不動産評価が下がっているので、オールドタウン化の傾向を何とかしたい。
委員長	指針の計画期間について、事務局の考えがあるかな。
事務局	10 年ぐらいの期間をイメージして提案して欲しい。
	高齢者が住み続けられるために
委員	2025 年に団塊世代が後期高齢者になる。現在の高齢化率は 37.1%であるが、2025 年とはどのような数値になるのか。2 人に 1 人が高齢者になるなかで、住みよいまち、住み続けたいまちをどのように実現するのか。資料 4、22 頁、地域医療・介護・福祉の資源がある。一方で、18 頁、商業系では買物弱者の課題が出されている。 資料 6、14 頁、アンケート調査結果において、住み続けたいまちとするために力を入れるべき分野は、高齢者が元気に活動できるまちづくりとなっている。
副委員長	後期高齢者、一人暮らし高齢者のデータに着目する必要がある。これらの層は

	買物弱者であり、住み続けることが難しくなる。
	ニュータウンの活性化とコミュニティの再生について
委員	西山台にお嫁に来てから三代で暮らしている。両隣は一人暮らしの高齢者世帯である。これまで祖父母の世代が地域社会をつくってきた。その世代が暮らし続けることが難しくなっている。我々の世代は地域活動に関わっていない。人のつながり方は、祖父母の世代と異なっている。
委員長	地域活動団体の活動状況を見ると、様々な活動がされている。
委員	子どもは地域に育ててもらったが、20歳になって働き始めて地域とのつながりがない。コミュニティ活動は、祖父母の世代に任せてしまっている。
委員	自治活動の役員は団塊の世代であり、その次の世代がいない。地区長会では、役員をやる人をどのように見つけるか、といった議論になっている。団塊世代が後期高齢者になる時期を迎えて、自治会が疲弊していくことが予想される。
委員長	狭山ニュータウン地区の活性化では、コミュニティの再生につながる取組みが必要になる。
委員	公益活動団体でも、次世代のリーダーが育っていない構造的な問題が生じている。
委員長	南中校区の円卓会議はNPO法人化されているが、状況はどうか。
委員	コミュニティづくりの事業に参加するのは高齢者が中心であり、若い世代の参加は2割ぐらいである。子育て層向けのイベントでも高齢者の参加が多い。
委員	資料7、3月の陶器山ウォーキングを運営しているが、スタッフの高齢化が進んで、運営がしんどくなっている。幼稚園や小学校に参加チラシを配っているが、子どもの参加は少ない。
委員長	緊急災害時など、非常時に備えた地域活動の大切さについて、若い世代に対する啓発が必要である。
委員	市役所職員についても、地域活動の担い手として頑張ってもらいたい。
	若い世代の呼び込みについて
委員	資料4、25頁、取組項目について、「新たな人、若い世代の呼び込み」が大切である。高齢者に対する取組みは充実しているが、元気な高齢者のみが参加している。60歳でも地域では若手になる。働いている間は地域活動への参加は難しいが、中高生、大学生が参加できるとよい。
	空家、空き家が増えており、家主と利活用希望者のマッチングを行ってみたい。空家活用で狭山ニュータウン地区を活性化させたい。西山台の府営住宅に親を呼び寄せたことから、府営住宅の活性化に取り組んでみたい。
委員長	若い世代、働いている世代のニーズ調査が行われているか。調査がされていないならば、ヒアリングなどを行うことが考えられる。
事務局	子育て支援について分野別の計画があり、ニーズを把握している。総合計画策定の際に、世代別の分析がされているか確認する。
委員	堺市の利便性のよい地区に住んでいたが、30年前に大野台七丁目に引っ越してきた。自然環境などは現在の方がよいが、独立した子ども達は戻ってこないと思う。高齢者の一人暮らしとなって駅近に住み替えた人もある。当時は共働き世帯は少なかったが、現在は女性も働く必要があり就労率は高い。女性が働く、子育て層が住み続けるために子育て支援のサービスが必要になる。第2幼稚園にこども園ができるが、待機児童などの状況はどうか。
事務局	現状では若干待機児童があるが、こども園整備によって解消される見込みである。
委員	生まれも育ちも狭山ニュータウン地区であり、小学生の子育て中である。両親も狭山ニュータウン地区で暮らしている。保育園があり、安全な通学路があり、見守り活動がされていて安心である。子育て層にとってお金に換えられない心

	強い環境であり、誇れるのではないかな。
	両親は 70 歳代であり、運転免許を返納したら不便になる。車がなくても移動できるようにバス交通が後退しないようにしたい。
委員	新たな魅力づくりと 50 周年記念プロジェクトについて
委員	少子高齢化によって、バスの乗降客が減少している。収益を上げないと事業者として維持できない。加えて、近年では運転手不足の問題が生じている。
委員長	自動運転の動向はどうか。
委員	国土交通省で自動運転の検討が進められている。ニュータウンは都市基盤が整備されており、実証実験が行いやすい。実証実験の公募が 6, 7 月にあると聞いている。5~10 年後には交通環境が変わってくるのではないかな。
	ニュータウンは、道路、公園などの都市基盤が整備されているが十分活用されていない。公園を活用したカフェなど、若い人が集まることができる機会をつくることできる。
	1968 年の第一期分譲から 50 周年を迎えることから、活性化につながる記念事業に取り組んではどうか。
	府営住宅について、集約建替やエレベーター整備を行い、更地を生み出し、若い人が住みたい住宅や高齢者向けの住宅の整備を検討していきたい。
	空家について、利活用が難しい特定空家は少なく、マッチングできれば若い人が入ってくる。
委員長	50 周年記念プロジェクトを具体的に打ち出していけるとよい。自動運転のモデル事業なども手を上げていけるとよい。
委員	狭山ニュータウン地区は、南海バスと循環バスがあり、公共交通は恵まれている。近大病院移転に係る交通事業者との協議は、黒字を前提としたものとなる。泉ヶ丘や富田林のニュータウンと連携したバス交通の検討など、泉北側から乗客を呼び込むような検討が求められる。
委員	昭和 50 年に狭山ニュータウン地区に転入してきた。近大病院や、さやま遊園が魅力だった。ここに住む決め手は近大病院だった。移転後の跡地をどう活用すれば住み続けられるのか、考えてみたい。好奇心旺盛の後期高齢者が住み続けることできるニュータウンをめざしたい。
	近大病院がなくても大丈夫と言えるように、地域包括ケアの充実したまちをめざして、狭山ニュータウン地区に住み続けたい。新しい魅力づくりに取り組みたい。新しい魅力をつか二つはつくっていききたい。
委員長	狭山ニュータウン地区だけで考えずに、狭山池というシンボル、周辺の田園地帯など、市全体で役割分担を考えるべきではないかな。
	資料 4、17 頁、様々な活動があり、団体の基盤がある。世代交代ができていないとのことであるが、時系列で活動がどのように展開してきたか整理すると、次の取組みがみえてこないかな。
副委員長	橋本委員の場合は、狭山ニュータウン地区に引っ越してきた際の魅力として、近大病院やさやま遊園があった。次の段階では、それらはなくなることになる。新しい魅力をつくっていく段階になる。
	担い手の世代交代や担い手の確保は、主体を広げていく視点がいる。工場や福祉事業者など、地域貢献や社会貢献に取り組む主体を取り込んでいくことが考えられる。
	子育て層や高齢者を別々に考えるのではなく、多世代交流などにつなげて考えると新しい取組みがみえてくる。
委員	市民協働やコミュニティビジネスについて
	大阪狭山市は、行政が仕掛けて全国に先駆けて市民協働に取り組んできた。課題に対してコミュニティビジネスを立ち上げて、行政側が支援することができ

委員長	ないか。武蔵野市のテンミリオンハウスのような取組ができるとよい。市は起業する人に助成する、人を育てていくことに取り組んで欲しい。あわせて、市の職員も地域活動に参加すべきである。
委員	岡田委員から地域では、祖父母世代と子育て世代のつながりが弱いとのことであった。資料 4、17 頁の地域活動状況では、地縁型の活動が多いようにみえる。テーマ型の取組みを支援していく必要がある。
委員	他市を参考にすることも考えられる。高齢者が住みたいまちとして箕面市がある。大阪狭山市より交通の状況はよくないのではないか。どのような取組みをしているか調べてみてはどうか。
委員	新たな魅力づくりとして、陶器山や天野街道などの緑、大野ぶどうなど、緑のネットワークを活用したい。狭山ニュータウン地区は、まちなみ保全や建築協定などによって、差別化に向けて魅力を打ち出していく必要がある。
委員長	富田林市の小金台は、ロコミで人気があり、子育て層が多いと聞いている。若い子育て層が住みたい住環境を用意できるとよい。
委員	狭山ニュータウン地区の魅力を SNS で発信するなど、魅力的な生活スタイルを発信できるとよい。
委員	河内長野市の南花台は、関西大学の学生の協力を得て、スマート・エイジングシティのモデル事業に取り組んでいる。コノミヤと一緒に取り組んでいる。泉北ニュータウンは、大阪市立大学の協力を得ている。
委員長	狭山ニュータウン地区では、府立大学や帝塚山大学の研究室に参加して欲しい。
委員	資料 4、17 頁、地区福祉委員の活動があるが、高齢者や子育てといった分野の枠がある。また、お世話する人、される人の枠がある。お互いに支え合うといった意識改革ができるとよい。資料 7 には自宅マンションの夏祭りが入っていない。
委員長	大学との連携は、今年度まちあるきのワークショップがあり、府大生に参加の呼びかけを行う。研究活動を行ってきた経過もある。
委員	次回の委員会は、基本目標や取組項目の検討になるのか。
委員長	第 2 回は将来像を定める。その実現に向けて、具体的に何をやるのか検討することになる。
委員	当事者意識を持ってもらうために、バス路線に近い地区・はずれている地区、リノベーションがされている府営住宅など、地域からテーマを出してもらうと当事者意識が高まるのではないか。
委員長	資源や課題の切り口として、狭山ニュータウン地区の中での地区ごと、世代ごとなど、自分事として考えてもらえるようにしたい。
委員	自分事として考えてもらえるような指針としたい。
次回委員会の日程について	
第 2 回策定委員会	
日時 平成 30 年 7 月 31 日（火）午前 10 時～	
場所 大阪狭山市役所 3 階 協議会室	
事項 基本目標、将来像、取組項目	